

(5) ミカ ン

〔果樹類>かんきつ>みかん〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
そうか病	展葉初期 落葉期 梅雨期	・まん延すると防除困難になるので、発生初期に防除する。 ・展葉初期および落葉期の薬剤散布が、重要である。
	[耕種的防除]	・り病している枝や葉は、せん定時に取り除く。 ・湿度が高いと多発するので、谷間での栽培や密植・過繁茂状態を避ける。
黒点病	果実肥大期	・枯れ枝や園内に残したせん定枝が伝染源となり、降雨のたびに枯れ枝等から病原菌が飛散する。このため、多雨年や老木園で発生が多い。 ・幼果期・梅雨期・秋雨期前(8月中下旬)の防除効果が高い。
	[耕種的防除]	・枯れ枝はせん定で常時除去し、枯れ枝・せん定枝は園外で処分する。 ・ミカンの切り株がある場合には、肥料袋等をかぶせて病原菌の飛散を防ぐ。 ・適切なせん定により樹冠内部への採光を図り、枯れ枝の発生を抑える。
貯蔵病害 (青かび病 緑かび病)	収穫の10 ～30日前	・病原菌は土壌中にあり、秋季に土ぼこりとともに胞子が飛散して、果実に付着する。 ・果実表面の傷口から感染し、貯蔵中に発病する。
	[耕種的防除]	・着果期間中は、枯れ枝をこまめに除去し、果実の傷つきを防止する。収穫以後の果実では、収穫・運搬・選別などで果実に傷をつけないよう取扱いに注意する。 ・降雨時や降雨後または朝露など果実に水滴がある状態での収穫は、絶対に避ける。 ・貯蔵中は過湿にならないよう換気するとともに、腐敗果は見つけ次第除去する。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラムシ類 カイガラムシ類 幼虫	生 育 期	・ヤノネカイガラムシ越冬雌成虫の産卵は2か月にわたるため、第1世代幼虫は5～6月にかけて発生する。第2世代幼虫は、7月下旬頃に発生する。幼虫のふ化最盛期～ふ化直後に、薬剤散布する。 ・休眠期のマシン油乳剤の効果が高い。 休眠期防除参照
ヤノネカイガラムシ (幼虫～未成熟成虫)	[耕種的防除]	・天敵寄生蜂の生息を保護するため、寄生蜂産卵期(7月・9月)の殺虫剤散布はなるべく控える。 ・整枝せん定によって、通風、採光を良好に保つ。
ミカンハダニ	防寒被覆 除去後	・越冬虫に対しては、マシン油乳剤の効果が高い。 休眠期防除参照
ミカンサビダニ	落花直後 (5月下旬 ～6月下旬)	・晴天で乾燥が続くと、発生が増加しやすい。 ・そうか病および黒点病との同時防除を行う。
	梅雨明け後 (7月中旬 ～9月上旬)	・梅雨明け後から盛夏期にかけてダニ類は急激に増殖するので、初期発生に注意し、かけ残しのないように丁寧に散布する。
アザミウマ類	生 育 期	・チャノキイロアザミウマは、年7～8回も発生を繰り返す。ミカン園内での繁殖は少なめで、周辺の間宿主で繁殖した個体が、繰り返しミカン園に飛来する。
チャノキイロ アザミウマ	[耕種的防除]	・イヌマキ、サングジュ等の生垣、茶樹は中間宿主となるので、防風対策は防風ネットを用いる。 ・忌避効果のあるタイベックシートを樹冠下に敷設する。
アブラムシ類	生 育 期	・温州ミカンは、カンキツトリステザウイルス耐病性であるが、アブラムシの吸汁によって温州ミカンから伝播したウイルスが中晩柑類で発病するため、温州ミカンと中晩柑類の混植園などでは、アブラムシ類の発生に注意する。

病害虫名	防除時期	摘 要
カミキリムシ類	生 育 期 (6～7月)	<ul style="list-style-type: none"> ・成虫は、枝や葉を食害する。幼虫は地際部から主幹部に食入し、樹勢低下や樹体枯死を引き起こす。 ・成虫は、6月中旬頃から発生し、6月下旬～8月上旬頃に主幹部へ産卵する。 ・成虫防除は、樹冠全体へ散布し、幼虫防除は主幹部等へ散布または塗布する。
ゴマダラ カミキリ ゴマダラ カミキリ成虫	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・主幹部の雑草を除去し、隠れ家を減らす。 ・園内を見回って、成虫を捕殺する。 ・幼虫は、枝幹部の穴やひび割れを観察して、捕殺する。幼虫の食害痕には、トップジンMペースト等を塗布して、傷口のゆ合促進をはかる。 ・通風、採光を良好にする。
ミカ ン ハモグリガ	生 育 期 (7月下旬 ～9月上旬)	<ul style="list-style-type: none"> ・7月以降に発生する夏秋梢に発生しやすい。 ・幼虫は、葉の内部を食害しながら進むため、不規則な曲がりくねった食害痕となる。 ・被害葉は、葉肉内に雨水が入ることで、かいよう病の発生が多くなる。 ・多発すると葉奇形となり、新梢生育が抑制される。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・食害された新梢は、せん定で除去する。

ミカン【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									そうか病	灰色かび病	黒点病	切り口及び傷口のゆへ促進	貯蔵病害（青かび病）	貯蔵病害（緑かび病）
みかん	エムダ イファー水和剤	マンゼブ 水和剤	M3		収穫60日前まで	2回以内	200～700% /10a	散布			600～800倍			
みかん	キノドール水和剤40	有機銅水和剤	M1		収穫30日前まで	5回以内	200～700% /10a	散布	500倍		400～500倍			
みかん	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ 水和剤	UN(*)	収穫30日前まで	4回以内	200～700% /10a	散布	400倍			400～800倍			
						4% /10a	無人航空機による散布			5倍				
						8% /10a				10倍				
						16% /10a				20倍				
みかん	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1	収穫前日まで	5回以内	200～700% /10a	散布	1000～1500倍	1000～1500倍			2000～3000倍	2000～3000倍	
						8% /10a	空中散布	30倍						
みかん	ベンレート水和剤	ベニミル水和剤	1	収穫前日まで	4回以内	200～700% /10a	散布	2000～3000倍	2000～3000倍			4000～6000倍	4000～6000倍	
						5% /10a	無人航空機による散布				30倍	30倍		
						10% /10a					60倍	60倍		
かんきつ	ストロビートライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200～700% /10a	散布	2000～3000倍	2000～3000倍	2000～3000倍			
かんきつ	トップジンMベースト	チオファネートメチルベースト剤	1		【A】	3回以内		塗布				原液		
かんきつ	フロンサイド SC	フルジナム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	200～700% /10a	散布	2000～2500倍	2000～2500倍	2000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

ミカン【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）						適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）																			
									アブノ類	アザミヤ類	アブラムシ類	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カキノミシ類	ゴマダラカシ リ	ゴマダラカシ 成虫	チノビヨウサ ミカ	ミカノビダニ	ミカノダニ	ミカノモリガ														
みかん	アブノドフロアブル	アブノロジック水和剤	16		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布																										
みかん	アブノド水和剤																																	
みかん	カトサイドS	MEP乳剤	1B	【A】	1回	-	【X】																											
						100～ 1000mL/樹	【Y】																											
みかん	スカタフロアブル	トリロトリノ水和剤	3A	劇	収穫3日前 まで	5回 以内	200～700% /10a	散布															2000～ 4000倍		2000～ 4000倍									
みかん	ノモト乳剤	アブラノズロン乳剤	15		収穫21日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	2000倍																1000～ 2000倍									
みかん	ビラカ水和剤	アブノビラド水和剤	21A(※)	劇	収穫前日 まで	1回	200～700% /10a	散布																	1000～ 2000倍									
みかん	マツ乳剤	アブノロン乳剤	15		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	2000～ 3000倍																2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍							
みかん	マブリツカ水和剤20	アブノリネート水和剤	3A	劇	収穫21日 前まで	2回 以内	200～700% /10a	散布				2000～ 4000倍													2000～ 4000倍	2000～ 4000倍								
かんきつ	コナツアブノブル	アブノナナド水和剤	13	劇	収穫前日 まで	2回 以内	200～700% /10a	散布																		2000～ 6000倍								
かんきつ	アブノ水和剤	アブノペン水和剤	21A	劇	収穫3日前 まで	2回 以内	200～700% /10a	散布																	2000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍							
かんきつ	アブノアブノブル	アブノロシメト水和剤	21A		収穫前日 まで	2回 以内	200～700% /10a	散布																	2000倍	1000～ 2000倍								
かんきつ	アブノ水溶剤	アブノアブノ水溶剤	4A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布		2000～ 4000倍	2000～ 4000倍				2000～ 4000倍											2000～ 4000倍								
							100mL/樹	樹幹散 布											20倍										20倍					
							4～8% /10a	無人航 空機に よる散 布												24倍											24倍			
							4～16% /10a													48倍											48倍			
かんきつ	アブノ乳剤	アブノロン乳剤	3A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布																2000倍	1000～ 2000倍									
かんきつ	アブノ顆粒水溶剤	アブノアブノ水溶剤	4A	劇	収穫14日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布			2000～ 4000倍	2000～ 4000倍	2000～ 4000倍												2000～ 4000倍	2000～ 4000倍								
かんきつ	アブノアブノブル	アブノアブノ水和剤	23		収穫7日前 まで	3回 以内	200～700% /10a	無人航 空機に よる散 布			2000倍	2000倍	2000倍													2000倍								
							4～6% /10a																											
							6～8% /10a																											
							8～10% /10a																											
							10～15% /10a																											
							15～20% /10a																											
							20～30% /10a																											
							30～40% /10a																											
							40～50% /10a																											

使用時期：【A】6～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)但し収穫90日前まで
 使用方法：【X】樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで塗布、【Y】樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで散布、【Z】主幹から株元に散布